

プロフィール	<p>同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授。元名古屋大学教授。タイやネパールなど、主にアジア地域で紛争解決・紛争処理実務家・若者向けトレーニングを数多く実施してきました。帰国後は、武器・兵器の問題について広く知ってもらうため、『小型武器に挑む国際協力』（創成社新書、2013年）などを出版しています。</p>
授業主旨	<p>日本の研究機関では専門家が少なかった紛争と平和に関する研究をおこなうため、英国の大学院で学び、これまでボスニア・ヘルツェゴヴィナ、東ティモール、ケニア、タイなど、多様な地域で暮らしながら調査・研究を行ってきました。武力紛争をなくすことはもちろん、その過程での武器や兵器の問題、さらには持続可能な平和な社会を築くには何が必要かという問いに向き合ってきました。</p> <p>現代の国際社会では、大国間の関係が急速に変化する中、ロシア・ウクライナ戦争の継続、イスラエルとガザの対立の激化、中東地域の不安定化、そしてアジアで続く武力衝突といった深刻な問題が山積しています。このような状況について偽情報に振り回されずに、私たち一人ひとりが日本という立場から何をすべきかを真剣に考える必要があります。国際関係の変容が急速に進む中で、武力紛争を未然に防ぐための取り組み、紛争後の国家再建を支援する枠組み、さらには持続可能な平和構築のための包括的かつ現実的なアプローチを模索することが重要になっています。これらの課題について多角的な視点から議論をしながら理解を深め、相互理解と連帯を基盤に、持続可能な平和の実現に貢献できる人材の育成も必要です。</p> <p>これまで世界各地域の紛争の背景や特徴を分析し、平和構築のための政策提言を行ってきましたが、現在の世界情勢の変化の中で、日本の戦争体験が生かされるために何が必要なのか、私たちは何をしなければならないのかについて考えて行動しなければならない時期に来ています。戦争の記憶を次世代に継承し、平和を守るための取り組みが、教育現場や家庭、そして日常の人間関係にどのように根付くのか、戦争体験が生かされるために私たちが担っていく役割とは何かを探求しています。今後もグローバルな視点と地域の文脈を組み合わせた研究を通じて、武力紛争のない世界の実現を目指すとともに、平和に暮らすとは何かを共に考え、行動する社会を実現していくために、さまざまな世代の皆さんと考えていきたいと思っています。</p> <p><英語授業可> <Zoom 会議対応可></p>

<p>実績</p> <p>※2020 年度から 講師</p>	<p>【出前授業】</p> <p>2025 年度</p> <p>7 月 「戦争を終わらせるのはなぜ難しいのか？平和の理想と現実」</p> <p>8 月 「『カカオの真実』から考える貧困と現在の社会」</p> <p>2024 年度</p> <p>6 月 「国際関係と紛争の平和的解決」</p> <p>7 月 「紛争のない世界のための国際協力」</p> <p>11 月 「課題研究の進め方」</p> <p>「国際関係と紛争の平和的解決」</p> <p>「ロシア・ウクライナ戦争と世界」</p> <p>12 月 「戦争を違法化した時代に生きる私たちの課題」</p> <p>2023 年度</p> <p>11 月 「大国間競争の時代における武力紛争の予防と管理」</p> <p>12 月 「国際連合による平和活動とこれからの世界」</p> <p>2022 年度</p> <p>10 月 「紛争のない世界のための国際協力」</p> <p>12 月 「戦争を違法化した時代に生きる私たちの課題－ウクライナ・ロシアの戦争を考える」</p> <p>2021 年度</p> <p>10 月 「多様な地域の紛争と平和な社会の創造」</p> <p>12 月 「国際紛争と国際平和」</p> <p>2020 年度</p> <p>3 月 「パンデミック後のアジアと世界を読み解く」（Zoom 利用）</p> <p>【特別講座】</p> <p>2023 年度</p> <p>7 月 「対立の時代に生きる － これからの時代の平和のために私たちが知っておくべきこと －」</p> <p>2022 年度</p> <p>7 月 「SDGs がめざす地球市民としてのパートナーシップ－グローバル化した世界における武力紛争－」</p>
------------------------------------	--